

【鳥取県幼児教育振興プログラム（第2次改訂版）の全体像】

本県がめざす幼児の姿「遊びきる子ども」の育成に向けて、以下の5つの推進の柱に基づき、基本方針と目標を設定しました。県・県教育委員会と県内全ての幼稚園・認定こども園・保育所等、市町村及び設置者、小学校等が各々取り組むことを具体的に示しています。

めざす幼児の姿 遊びきる子ども

1 幼児教育の質の向上

質の高い幼児教育

基本方針（1）幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開

目標① 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容の理解推進

目標② 教育・保育内容の充実

目標③ 自己評価を中心とした学校評価・園評価の活用・推進

基本方針（2）幼児教育における環境の充実

目標① 幼児教育における環境の改善・整備

基本方針（3）特別な配慮を必要とする子どもへの教育の充実

目標① 支援体制の整備・充実

目標② 個別の教育支援計画等の作成・活用及び関係機関との連携

2 保育者の資質向上

専門性の向上

基本方針（1）研修体制の整備

目標① 体系的な研修計画の整備

目標② 計画的・組織的な研修の推進

基本方針（2）研修内容の充実

目標① 専門性の向上のための研修の充実

目標② 幼保多様化に向けた研修の充実

3 小学校教育との連携・接続推進

教育・保育の相互理解

基本方針（1）連携・交流の体制づくり

目標① 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の連携・接続の体制整備・充実 ～組織をつなぐ～

目標② 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校教職員等の連携・交流の推進 ～人をつなぐ～

基本方針（2）つながりを意識した教育・保育内容の充実

目標① 接続カリキュラムの編成
～教育をつなぐ～

目標② 地域における連携体制の整備
～組織をつなぐ～

これからの幼児教育の指針

4 子育て・親育ち支援の充実

家庭教育を支える

基本方針（1）「親と子の育ちの場」の充実

目標① 多様な場を活用した交流機会の提供

目標② 保護者の育ちを応援する学びの機会の充実

目標③ 親と子の生活習慣づくりの支援

基本方針（2）子育て支援体制の充実

目標① 関係機関と連携した子育て支援体制の充実

目標② 家庭や地域における子育て支援体制の充実

基本方針（3）地域における園のセンター的機能の整備

目標① 幼稚園・認定こども園・保育所等におけるセンター的機能の充実

5 地域とともにある幼児教育の推進

関係機関がつながる

基本方針（1）幼児教育・保育施設と関係組織の連携

目標① 連携体制の整備

目標② 市町村における幼児教育の充実に向けた政策プログラムの策定

目標③ 多様な幼児教育・保育施設の連携推進

基本方針（2）地域とともにある園づくりの推進

目標① 地域資源の活用

目標② 子どもを支える地域づくり



【キーワード】

「遊びきる子ども」の育成に向けて5つの柱にはキーワードを設けています。例えば、推進の柱1では、「質の高い幼児教育」を通して、「遊びきる子ども」を育てます。

概要版

鳥取県幼児教育振興プログラム（第2次改訂版）

遊びきる子ども

～遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ～



教育・保育の
相互理解



質の高い
幼児教育

家庭教育を
支える



専門性の
向上

関係機関が
つながる

令和元年11月
鳥取県教育委員会



大切にしたい子どもの姿

遊びたい
(意欲)

- ▶ 友達の遊びの様子を見て楽しむ姿
- ▶ 友達の遊びに加わろうとする姿
- ▶ 遊びのイメージをもち、やりたいことを表現する姿
- ▶ 遊びのイメージを広げたり、深めたりしようとする姿

(自ら)
遊びだす

- ▶ 気付いたり、思ったりしたことを伝えようとする姿
- ▶ 失敗しても何度も繰り返し、試行錯誤する姿
- ▶ 友達や先生の話に関心をもち、理解しようとする姿

十分に
遊びこむ

- ▶ 興味や関心をもち、新たなことを知ろうとする姿
- ▶ 時間を忘れ、集中する姿
- ▶ 友達との意見の対立の中で葛藤する姿
- ▶ 友達と話し合い、折り合いをつけようとする姿

遊びきる

- ▶ 全身を使って思い切り体を動かすことを楽しむ姿
- ▶ 楽しかったことや満足したことを伝える姿
- ▶ 「もっとやりたい」と新たな遊びに思いをめぐらせる姿

めざす幼児の姿

遊びきる子ども

学びの基礎

豊かな人間性

健康な体

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。自発的な活動としての遊びが充実し、遊びに集中する中で、保育者や友達に自分の思いを伝えたり、考えを表現したりしながら**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが**遊びきる**ことにつながり、遊びきることで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。

この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びのイメージや見通し、エネルギーを生み出すことにつながります。このような遊びの繰り返し、義務教育以降の学びの土台となる力を育むこととなるのです。

「**遊びきる**」とは、一人一人が、試行錯誤したり、挑戦したりする中で、自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達と関わって**十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態**であると捉えられます。この経験が「自己肯定感」を育むことにつながります。



幼児期の学びはつながっています

幼児期に遊びを通して身に付けた力は、小学校以降の創造的な思考や主体的な生活等の基礎となっています。

(例)「対話的な学び」のつながり

園

友達や先生の話に関心をもち、話を聞いてみる。

考えたことを自分なりに表現しようとする。

幼児期において「対話的な学び」は友達や保育者、地域の方との関わりを深める中で、自分の思いや考えを伝え合い、自らの考えを広げ深めることで実現します。



小学校

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えて自分の考えをもつ。

相手や目的に応じて適切な表現方法を選んで表現する。



中学校

論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

表現手段の特徴を理解し、相手や目的、意図に応じて効果を考えながら工夫して表現する。



遊びの中の学び

遊びは、乳幼児期にふさわしい活動の在り方であり、遊びを通して、たくさんの学びが生まれます。そのため、保育者は、子どもの自発的な活動である遊びを十分に確保することが大切です。そして、遊びの中で、子どもが身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、子どもと共によりよい教育環境を創造するよう努めることが求められています。

【砂遊び:4歳児の例】

砂を触ったり、落としたり、固めたり、並べたりする中で、遊びのイメージを広げる。

砂を運んだり、全身を使って掘ったりすることを繰り返し、進んで体を動かす楽しさを味わう。

友達の遊びを真似たり、一緒に遊ぶ方法を話し合ったりすることで、人と関わる楽しさに気付く。

共通の目的に向かって、友達と協力して取り組む楽しさを味わう。

遊びに使った道具の片付けをすることで、きまりを守る気持ちよさを感じる。

砂の色の違いや性質に気づき、試したり、工夫したりする。

団子の数を数えたり、大きさを比べたりして、数量や図形などに興味をもつ。

